

# カウアイ島派遣 報告書

山本 琳太郎

## 1. カウアイ島の自然


火山活動によってできたカウアイ島には、雄大な自然が広がっていました。ここでは、私が訪れた中で、特徴的だった2か所について紹介します。

### ① ワイメアキャニオン



カウアイ島に関するどの旅行情報誌にも載っているのが、左の写真に示したワイメアキャニオンではないでしょうか。数千万年の歳月をかけて雨風や流水で削られてできた大渓谷（キャニオン）は、「The Grand Canyon of the Pacific (太平洋のグランドキャニオン)」と称されるほど壮大でした。

### ② ワイルアビーチ

ワイルアビーチでは、ホストファミリーと散策しました。ビーチでは、  
左に示すような穴が多数見受けられました。ホストファミリーに穴の正体について聞いてみると、サンドクラブ（スナガニ）の巣穴だと教えてくれました。



## 2. カウアイ高校（Kauai High School）

カウアイ高校では、数学・心理学・化学・日本語 の授業を体験しました。

### ① 学校生活

制服はなく、授業内での自由な発言が認められていました。そして、生徒参加型の授業が多かったので、生徒の自主性や自由が尊重されていると感じました。また、それぞれの行動に対する目的意識が高く、自分の進路に合わせて上手くメリハリをつけている印象でした。

### ② 日本語クラス

日本語クラスでは、生徒たちが日本から来た私に質問する授業形式が採られました。生徒が「好きな 日本食／アニメ／日本の温泉／日本の城は何ですか。」などと日本語教材を用いながら尋ねてくれて、現地の高校生の日本に対する興味・関心を伺い知ることができました。

私の家の近くの大庄屋諏訪家屋敷について、持って行った写真やパンフレットを用いて説明しました。日本の伝統的な建築様式や枯山水式庭園に興味をもっていた様子でした。特に、古文書内の文字への関心は大きかったです。現地では文字を書く道具としてボールペンや万年筆が主流であり、筆で書かれた文字のなめらかさ・線の太さの繊細な違いが一種の芸術として受け止められていました。

### 3. カウアイ島での日本

#### ① カウアイ島で有名な日本人

ホストファミリーをはじめ、多くの現地の方々に尋ねたところ、メジャーリーグでの活躍している大谷翔平選手・プロゴルファーの松山英樹さん・歴代最長の在任期間で外交に取り組んだ安倍晋三 元内閣総理大臣が有名でした。

#### ② 日本の技術

道路で走っている車のほとんどがトヨタ自動車・本田技研工業・日産自動車のものであり、家電製品も日本のメーカーのものが少なくありませんでした。ホストファザーは「日本の技術は世界一だ。」とっていました。

#### ③ カウアイ島での日本食

私がお世話になったホストファミリーのご先祖が日本人だったこともあり、家で和食を食べる機会が何度かありました。カウアイ島にも日本の食品メーカーが出している豆腐 (tofu) や醤油 (Soy Sauce) があり、ホストファザーが和食の腕をふるってくれました。(左の写真参照)



#### ④ 日本のアイデンティティ

「日本のイメージは何ですか。」と英語で尋ねると、安全な日本像・礼儀正しく親切な日本人像が返ってきました。日本の「おもてなし精神」は海外でも評判のようです。

近年の日本国内では、特に有名人が「日本人の同調性」について批判する傾向があると感じます。しかし、それは必ずしも正しくありません。例えば、安全な国・日本は、周りに合わせようとする同調性によるものだという性格があり、周りの人々をよく見て尊敬することで、おもてなしの国・日本ができていると捉えることもできるからです。

日本は神武天皇の即位以後、2600 年にわたる歴史を持っていて、それは現存する国家では世界最長です。一方で、アメリカは 1776 年の独立宣言からの約 250 年、日本に続く世界 2 位の歴史をもつデンマークでも約 1000 年といわれています。そのため、国際社会で生き残るための生存戦略・国家を維持する仕組みとして、同調性は優れているのかもしれませんが。

また、カウアイ島には「自然のすべてに神が宿る」と考えられていて、それは日本のアニミズム的な思想と通ずるものがありました。

### 4. 研修を終えて

カウアイ島で現地のことを学ぶにつれて、滋賀県や守山市を俯瞰してみることができるようになり、日本についての理解も深まりました。今後も国際人としての素養を身につけるために、外国語理解だけでなく、国際的な教養の見識を深めていきたいです。

## 1<sup>st</sup> day

カウアイ島へ初上陸！天候に恵まれ、晴天の中ホストファミリーから歓迎を表すレイを頂きました。1食目は、バーガーキングに訪れ、そこではホストファミリーのみなさんに自己紹介をしました。その後、ホストファミリーごとに別れ、私たちは、現地のスーパーマーケットで買い物をしました。どの商品も日本のものよりも大きく、ワクワクしながらショッピングを楽しみました。この日の夜は歓迎パーティーとして、ホストファミリーだけでなく、ご親戚や日本からの交換留学生など多くの人を招き、一緒に夕飯を頂きました。

## 2<sup>nd</sup> day

ホストファミリー、交換留学生のみなさんにカウアイ島の観光スポットを案内していただきました。太平洋のグランドキャニオンと呼ばれている「Waimea Canyon」では、守山では絶対に見ることの出来ない壮大な景色を、楽しみました。現地の人によると、そこは世界一降水量の多い地点だと言います。そのためハワイ語で水を意味する「Wai」が名前に含まれています。さらにプライベートビーチにも連れて行ってくださり、素敵な思い出ができました。



### 3<sup>rd</sup> day

夢プロジェクトスペシャルプログラムを計画していただき、5つの講座を体験しました。その中で、フラダンスを学び1曲踊ることが出来たことは思い出に残っています。さらに、バイリンガルの方による講座では、人の考えを尊重することを学び、今の自分が本当にたい将来の姿を再確認するきっかけになりました。プログラム後には、2日目とはまた異なるビーチへ連れて行ってくださり、綺麗な青と遠くに見える水平線に感動しました。この日の夕食は、ハワイの伝統料理を振舞って下さいました。

### 4<sup>th</sup> day

カウアイ高校に訪れ、実際に4つの授業を受けました。日本との授業スタイルが大きく異なりました。具体的には、服装や態度、時間割など全てがフリースタイルです。つまり、生徒は自分たちで受ける科目を組んでいきます。そのため、学年が混合になる授業も多くあります。自分たちで時間割を組むことで、それぞれ力を伸ばしたい教科を重点的に取ることが可能になります。その後郡長さんのもとへ挨拶をしに訪問しました。

**Last day** お世話になったホストファミリーへ感謝の気持ちを伝え、カウアイ島を後にしました。(号泣中の写真↓)



派遣を通して…

この5日間は、ただ英語を学びに来たのでも、日本とカウアイ島の違いを知るのでもなく、これからの生き方について考えを深めることができたように思います。夢プロジェクトで入賞し、派遣されたからこそ経験できたことばかり。こんなにも密度が濃く、楽しい5日間を過ごしたのは初めてでした。Thank you, Kauai. I love Kauai. I will be back soon.

## &lt;1日目 3/25&gt;

- ・ホストファミリーと顔合わせ
- ・ホストファミリーと過ごす

1日目は緊張しており移動中の車でなかなか自分から言葉を発することができませんでした。同じホームステイ先だった西川那奈さんは率先して話しかけていたので、自分ももっと会話をしたいと思うようになりました。夜はホストファミリーの方が親戚の方々や友達を呼んでBBQをしてくれました。広い庭では様々な料理があり、たくさんの方がいて初日から普段過ごす中ではなかなかない光景に刺激を受けました。



## &lt;2日目 3/26&gt;

- ・ホストファミリーとお出かけ

2日目はホストファミリーと姪っ子さんの日本の友達とワイメアキャニオンへ行きました。カウアイ島は自然豊かで町には野生の鶏がたくさんいて驚きました。ワイメアキャニオンは見たこともないような景色が広がっていてその素晴らしさに言葉が出ませんでした。ホストファーザーのクレッグさんはその溪谷の歴史について詳しく説明して下さい、難しいところは姪っ子さんの友達が通訳をしてくれました。お昼は近くの公園でピクニックをしました。クレッグさんと奥さんのローリーさんは面白い方で桜も咲いていないけれど車から降りる時に「お花見」と言っていました。その後にプライベートビーチに連れて行ってもらいました。そこは地元の人しか入ることができないようで一般的なビーチとは違う孤立した空間でとても新鮮でした。夜ご飯はハワイ料理の「チリ」というホットドックに似たようなものをご馳走してもらいました。ソーセージの上に豆がたくさん入ったソースのようなものがかかっていて美味しかったです。



<3日目 3/27>

・守山夢プロジェクト

3日目はカウアイ博物館でハワイ語講座、フラダンス講座、レイ作り講座、バイリンガルについての学習など様々な体験をしました。ハワイ語は高校や大学で学びたい人だけがその授業を受けるといった形なので、現地の人みんな話せるというわけではありません。クレッグさんは「ハワイ語は発音の仕方がローマ字の読み方と同じなので日本語も発音しやすい」と言っていました。フラダンスは初めての体験で腰の使い方、体を滑らかに動かすことなどがとても難しかったです。私はよく趣味でK-POPを踊ったりするので慣れてくると楽しく踊れました。ピザやマカロン、ケーキをお昼に食べたのですが、食べ物があるとハエが寄ってきて虫が嫌いな私にとっては最悪でした。全ての体験を終えた後は館内で館長さんにカウアイ島の歴史について学びました。カウアイ島はハワイの中で一番古い島でちょうどこの日はカウアイ島の最後の王子であるクヒオ様の誕生日で祝日でした。夕方からはクレッグさんとローリーさんがビーチに連れて行って下さり、滋賀県は海に面していないのでヤシの木に囲まれて砂浜を歩いて過ごす時間は夢のようでした。夜ご飯ではまたまたハワイ料理をご馳走してもらいました。今回は豚肉を葉で包んだラウラウや昔カウアイ島で主食とされていたポイという食べ物を食べました。ポイは無味だったので初めて口にした時とても驚きました。



< 4日目 3/28 >

- ・カウアイ高校で授業体験
- ・郡長訪問

4日目はカウアイ高校で現地の高校生と一緒に授業を受けました。カウアイ高校では授業中にお菓子を食べる、携帯を使用する、教室を出入りするなどの行為が許されていました。また自分の受けた科目を選択して学年関係なく授業を受けるというスタイルでした。日本では学年ごとにクラスがあり基本はその教室で授業を受けますが、カウアイ高校は授業ごとに教室を移動するのでそもそも決まったクラスというものはありませんでした。日本の高校とは異なるスタイルでとても新鮮でした。カウアイ高校の生徒の皆さんはフレンドリーで男女問わず仲良く、初めましての私にもとても優しくかったです。夜はコストコで買い物をした後、レストランへ行きクレグさんとローリーさんと4人で食事をしました。料理のサイズが大きくて全て食べ切ることができませんでしたが、どれも美味しかったです。



< 5日目 3/29 >

・帰国



<感想>

この5日間はあっという間でホストファミリーとお別れはとても悲しかったです。クレッグさんもローリーさんも「またいつでもおいで」と言って下さりその言葉に涙が出ました。3日目の夜ご飯の後、私たちはクレッグさんと約2時間話していました。そこで私たちは「英語をすらすらと話すことができない」と悩みを打ち明けました。クレッグさんは「You are good at speaking English. Because we can talk together. I can understand what you said, and you understand what I said. Don't be afraid to speak English.」と言ってくれました。私はその言葉に救われました。このホームステイに行く前、自分は英語を少ししか話せないと思いついて不安でした。だからクレッグさんがこのように言ってくれた時とても嬉しくて、ホームステイに来てからの自分を振り返ると完璧に話せていなくても会話できていることに気が付きました。学校ではたくさんの文法を習って英語が難しいと思いがちですが、実際には文法が正しくなくても理解してもらえるので何も完璧を求めなくてもいいのだと思えました。私たちのホストファミリーはとても優しく、4日目の移動中の車の中で私たちを本当の娘のように思っていると話してくれました。私はこんな温かい空間にいらることが幸せだと思いました。今後もこまめに連絡を取り続け、この縁を大切にしたいです。今回このような貴重な機会を与えて下さり本当にありがとうございました。